



# 中高生とともに差別と闘う

## 人間であり続けること

吉成タダシ (うずしおブランチ代表)



### Mからの電話

「先生、友達が死にました——」

新年一月四日にかかってきた、教え子Mからの涙をこらえてきた電話でした。折しも、能登半島地震、航空機事故と、痛ましいニュースが相継いでいたところでした。

電話に出たところから、すでに声は沈んでいました。何かあったな、とは思っていませんでした。聞いていくと、その友達は一年ほど前に彼氏を追って上京し、そして別れた。昨年の九月ごろにSNSで知り合った仲間と共に自動車内で自殺をしたとのことでした。

そもそもその友達は、十代のとき、両親の離婚が原因で、母親について県外から引越してきたといひます。母親の再婚相手からは虐待も受けていたとのことでした。そんな頃に友達つながりで知り合い、家出のようにしてMの家でルームシェアを始めたのが、知り合うきっかけだったそうです。

M自身の生い立ちや生活環境も複雑で厳しいものでした。それでも高校生の友の会に来て語らったり、精神的なサポートをしながら、何とか今まで踏ん張ってきていました。だからこそ、その友達の思いも分かるし、何とかしたいという気持ちで働いていたのだと思います。

ところが上京して以来、その友達との連絡はぶつ切りと途絶えます。心配をしていたところに、元彼からあった連絡は、最悪の結果だったわけです。

### ロゼットの奇跡

「ロゼットの奇跡」という有名なお話があります。ロゼットは、アメリカ・ペンシルバニア州にある、イタリヤから移民してきた千数百人くらいの小さな村です。一九五〇〜六〇年に行った調査で、この村の心臓疾患による死亡率が、他と比べて半分以下だったことから注目を集めるようになります。

どうしてこの村だけが——

飲酒、喫煙、食事、運動といった健康行動や意識、あるいは生活水準など、ありとあらゆる調査が研究者らによって行われました。しかしそれらは、他の町と大して変わりません。ではなぜ、ロゼットの人々だけが心臓疾患にかかる確率がこんなに低いのか。

研究者たちが導き出した結論は、「連帯感や助け合い」以外に、その理由は見当たらないというものだったそうです。つまり、小さいコミュニティのなかでお互いが支え、助け合ってきた結果ではないかと。

しかしそれも、外部との交流が盛んになってからは結束が弱まり、アメリカ的な生活スタイルに変わっていくことで、周りの町と同じようになっていったといひます。今なら、DNA解析で新たな要因も見つかるかもしれないかもしれませんが、もし本当に人と人の結びつきが原因だとすれば……

### 命を救う語り合い

自殺した友達についてMはこう語りました。

「つながり続けていられれば、死なせずにすんだかも……」

M自身も、リアルなつながりのなかで救われてきた思いがあったからこそ、出た言葉だと思ひます。SNSも時には大きな役割も果たす大切なツールでしょう。でも昨今の事件を見ていると、その真逆の悲惨な結果に至るケースがあることも事実です。

前号で、自殺防止のための電話相談に取り組んでおられるという方が、「人が誰かに話すことはすごく大事だと思います」とおっしゃられていたと紹介しました。そして、私たちは、「みんな語り合う」という取り組みをしています。もしかすると、「みんな語り合う」というリアルな行為は、自殺予防・自殺防止の一助にもなり得るのかもしれない。いえ、すでになっているのかもしれない。

以前からこの取り組みについては、癒し効果があることが指摘されてきました。別な言い方をすると、集団カウンセリングのようだとおられることもありました。

自分が内に秘めてきたことをありのままに吐露することで、自己肯定感が芽ばえること。自分自身が癒され、前向きな視点が得られること。またそれを聴く側も、聴くことによって追体験したような感覚になり、共感、共鳴し、

わがことのように感じられ、自分も救われたような感覚になること。そしてその場や空間に居心地の良さを感じ、互いを認め讃え合え、それぞれの夢に未来への希望を感じるようになること。「語り合う」なかに、様々な汎用性や可能性があることを、あらためて実感することになりました。

### 人間であり続けること

気持ちが悪く落ち着いたところ、Mは言いました。

「ボク、彼女の歌をつくらうと思ひます。」

Mは体調のいい時には、ストーリーミュージシャンとして活動しています。

「上手くしゃべることは苦手だけど、歌ならうたうことができる。歌に乗せてなら、自分の思いを伝えることができる。」

生前、その友達が、「いつか私のことを歌にして」と言っていたのだそうです。いいじゃない、と私も背中を押しました。考えてみれば私も、大切な人の死や想いに寄せて、小説を書いてきたようなものです。そう思うと、音楽にしろ文芸にしろ美術にしろ、芸術とは人間の情動の現れであることを再認識させられます。

感情はときに厄介なものです。でもその感情があつてこそその人間だとも言えます。いくら時代が進み、世界がAIに取って代わられるようなことがあつても、私は人間であり続けたいと思ひます。